1/3 of the victims are children

unicef

2004年12月26日に発生した津波によって、インド洋沿岸の国々に住む約25万の人々が命を落とし、多くの人々が家を失いました。犠牲者の3分の1が子どもです。
ユニセフは、津波を経験した子どもたちの命を守り、親を失った子どもたちを守り、子どもたちが搾取などの被害に遭わないように、そして早く学校に戻ることが出来るように支援活動を続けています。

2004

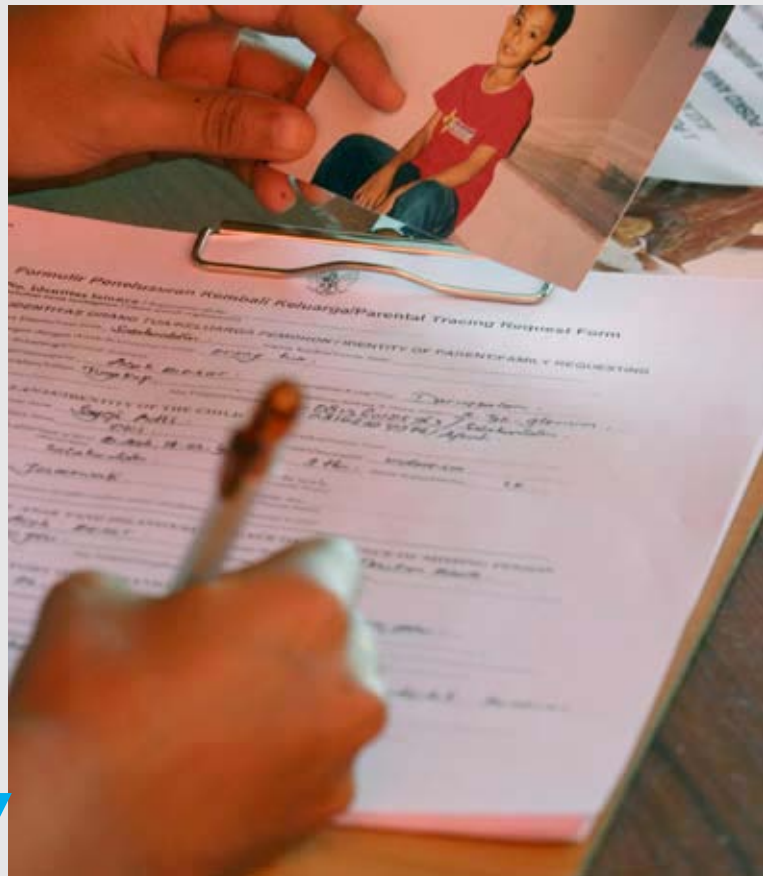
12月26日 津波で被災した各国それぞれで、ユニセフの現地チームは、津波発生から数時間もたたないうちに子どもやその家族のニーズを調査し、対応しました。緊急支援が始まりました。

12月30日

12月28日 緊急支援物資の配布が始まりました。
インドネシアのバンダアチェでは、津波によって多くの人が家を失いました。ユニセフは8,000世帯に、緊急保健キットや衛生用品を配給しました。

2005

1月7日 ユニセフは、孤児として登録された子どもの親戚を探し始めました。又、搾取の危険にさらされている子どもに安な環境を提供するための活動も始めました。



1月10日 クリントン基金とユニセフは「津波・水と衛生基金」を設立。不衛生な水を媒介として伝染する病気を防ぐことを目的に、安全な飲み水と衛生を確保するための活動を行っています。

1月10日

心理社会的ケアの専門家で構成されたユニセフの現地チームが、津波によって心に傷を負った子どもへのサポートを行い、教師や親を対象に心理的ケアについての研修を行っています。

1月15日

はしか予防接種キャンペーンが始まり、ワクチンが備蓄され、予防接種チームが各地域へ派遣されました。

4月

マラリアは、感染すると幼い命を奪いかねない病気です。ユニセフは、インドネシアに住む7万2,000人の母親と子どもへマラリア予防のための蚊帳約3万6,000張を配りました。また、インドやその他の被災地域に同様の支援を行いました。

1月12日

ユニセフ親善大使のディビッド・ベッカムさんは、津波によって被害を受けた地域への緊急支援を呼びかけるために、ユニセフ・グローバル・TVキャンペーンを立ち上げました。

1月26日

津波発生から1ヶ月。ユニセフの「スクール・イン・ア・ボックス」キット（学用品セット）が届けられ、ユニセフが提供した学校用テントで授業が再開。70%の子どもたちが学校に再び通いはじめました。

3月26日

津波が発生してから3ヶ月が過ぎましたが、予防可能な病気、水の不足、適切な衛生設備の欠如が原因で命を落とした子どもは一人もいません。民間からの募金は4億4,200万米ドルに達し、ユニセフの活動も災害発生直後の緊急支援から復興支援へと移行しました。

4月　インドネシア政府、国連、NGOの協力のもと、バンダアチェに住む生後6ヶ月から15歳の子どもたち111万3,494人がユニセフの支援するはしかの予防接種を受けました。

6月26日　スリランカでは、ユニセフが給水タンクや給水車を提供したことで、10万人の避難民が、一人1日当たり15リットル以上の水を利用できるようになりました。

9月15日　ユニセフは、津波の被害を受けたタイの６州で約1万人の子ども達を対象に、子どもたちの現状に関しての包括的調査が実施しました。

11月　ユニセフは、タイの学校の水と衛生状態の改善のために2年間にわたる水と公衆衛生プログラムを開始しました。

5月26日

この日までに、ユニセフはインドネシアだけでも50万人の子どもたちに、文房具や教科書、レクリエーション・キットの配給を行いました。また、200箇所で仮設の小学校校舎の建設が始まりました。

7月18日

インドネシアのアチェとニアス島にある21の子どもセンターで、1万7,000人の子どもたちがレクリエーション活動に参加しました。

8月30日

インドネシア全土でポリオが流行していることを受けて、ユニセフは第一回目の全国ポリオ予防接種を行いました。約2万5,000人のスタッフによって、48万3,000人の5歳未満児が予防接種を受けました。指導員は、予防接種によって子どもが病気にかかってしまうという誤解の根絶につとめました。

10月

インドネシアのアチェでは、ユニセフは、教師を対象にして、地震が発生した際の避難訓練の実施方法についての研修を行いました。

12月26日

ユニセフは「津波発生前よりも良い社会サービスを提供する」という方針の重要性をうったえ、津波によって破壊されたコミュニティの再生のために必要なものを人々が手に入れられるように努めました。

12月31日

350万の被災者がユニセフの支援を受けてきました。
例えば…

120万人以上の人々がはしかの予防接種を受けました。

140万人以上の子どもたちが、学用品を受け取りました。

予防接種のために、ワクチンの冷却輸送・保存器具が7,000以上の保健施設に届けられ、1万5,000人の保健員が研修を受けました。

40万人以上の人々が心理社会ケアを受け、
1万人のソーシャルワーカーが訓練を受けました。

2,393ヶ所で給水設備の建設及び修復が行われました。

2006

1月25日

ユニセフが提供した仮設校舎と「スクール・イン・ア・ボックス」キット（学用品セット）によって、モルディブのすべての小中学生が学校に戻ってきました。津波によってモルディブにある学校の約半数が、全半壊したために授業が出来ない状態でした。

4月12日

2005年9月27日から2006年4月12日まで行われたポリオ予防接種キャンペーンによって、アチェに住む約50万人の5歳未満児が予防接種を受けることができました。

6月

インド・タミルナドゥ州で最も津波の被害が深刻だった3つの地域で、包括的な学校教育改善プログラムが開始されました。

10月30日

「津波発生前より良い社会サービスを」の一環で、教員支援センターが設立されました。同様のセンターは今後19ヶ所に設立される予定です。このセンターはモルディブの離島に住む教員へ、高速インターネット回線や最先端の設備を利用して、研修及び学習教材を提供します。

12月26日

復興支援を機に「津波発生前よりも良い社会サービスを提供する」試みは、耐震性のある校舎や環境にやさしい下水処理施設の建設、栄養不良の削減などについてめざましい成果を上げています。しかし、完全な復興に向けてはさらなる努力が必要です。

2月　スリランカのハンバントタ県ゴナデニヤ村で、初めて保健センターが設立されました。このセンターは、津波復興支援の一環で、ユニセフが支援した35の保健センターのひとつです。

4月5日　モルディブには現在、淡水化装置が23機設置されています。津波によって雨水による給水設備が破壊された島々にも、この機械によって海水を真水に変え、きれいで新鮮な水が届けられています。

5月

ユニセフは、インドネシアのアチェにある23の村々に給水設備とトイレを建設、引渡しを行いました。

7月14日　モルディブで、大規模な薬物使用に関する若者グループによる調査を開始しました。このような薬物使用に関する調査はモルディブで初めての試みで、薬物乱用防止と薬物依存からの脱却キャンペーンにつなげていく予定です。この調査によって、津波発生後は薬物を使用する人が増加しているということが明らかになりました。

11月　インドネシアのアチェでは、少年司法改善に向けた活動の一環として、子どもにやさしい裁判室を設置し、12の警察署に子ども担当部署を設立しました。